

学校給食

食の安全対策は万全か

細心の注意でのぞむ



おなが まさひろ 議員
小永 正裕

が責任の所在が明確になった場合、町はどのような対応を取るのか。

(※)アレルギーの一種で重度の免疫反応。

答 金子 教育次長

問 病原性の強い様々な細菌やウイルスが原因となって引き起こされる食中毒や、近年では、アレルギー体質の子供たちが、大変増加傾向にある。昨年末、小学五年生の女子児童が強烈なアナフィラキシーショック(※)で死亡するという痛ましい事故があった。

これらの予防対策や、万一緊急事態が起きた場合、救命措置は万全か。更に、最悪の事態に陥ったとき、どんな保証があるのか。食材納入から配食まで、多くの工程がある

各作業項目については、学校給食衛生管理基準に基づいて実施している。また、アレルギー事故の予防策としては、先ず新入学の子どもにも食物アレルギー調査を行い、保護者と協議のうえ学校給食での対応を、弁当持参、自分で除去、除去食を提供、代替食品を提供する場合に分けて決定し、事故の起きないように取り組む。

万一事故が起きた場合は、救急車を要請し病院へ搬送する。また、保護者へ連絡を行うとともに給食センター、教育委員会へも連絡する。

学校給食事故の補償は、全国町村会総合賠償補償保険及び日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度で対応する。また、事故原因が調理に起因すれば、委託先が補償する。

問 食中毒の60%を占めるノロウイルスの感染経路は九割方不明で、必ず感染はあるという考えで対応すべきだ。また、先の女子児童のアナフィラキシーショック死を調べると、緊急時のエピペン注射(※)で100%対処出来た。危機感の薄れた担任の対応と、現場での情報共有の無さ、更に緊急事態発生時の誤った処置が致命的であった。本町での予防対策は、真剣な取り組みが必要ではないか。

(※)アナフィラキシー反応に対する補助治療注射

答 金子 教育次長

エピペン注射などの確認はしていないので、保護者と協議する。また、現場での情報の共有にも真剣に取り組む。

防災対策

概要と

完了年度は

中期では
平成34年度完成

問 必ず襲来すると言われる大地震は甚大な被害が予想される。防災対策の概要と完了予定年度は何時か。大きな被害を受けるとされる地区では、どの程度の想定か数例を挙げ、その対策を問う。また平成23年10月以降のハード面の整備状況も問う。

防災計画の目標年次は、短期では平成24年度から27年度の4年間。中期では、平成24年度から34年度の11年間。長期では、平成24年度から47年度の24年間で、避難場所、避難路は、平成28年度が完了年度。避難タワーは平成25年度中に完成予定。南海地震対策完了の目標年次は、平成47年度と考えている。

答 松本 情報防災課長

伊田小学校高台への避難橋



伊田小学校高台への避難橋